

キルギス政治・経済レポート

新キルギス NOW

(第 5 号 : 2012 年 1 月～2 月期)

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

【政治】

議会

新しい政府の 100 日計画とは

経済・財政担当のオトルバエフ副首相は、新政府が行うべき主要改革に関する「100 日計画」の主な内容について発表しました。現在、議論されている主な項目は、以下の通りです。

- ① 国家機構における予算支出削減
- ② 2012 年度に、2 階層予算の導入と地方自治体への予算増
- ③ 検査機関数の削減
- ④ 公益企業を 20,000 から 300 に削減
- ⑤ 金融警察の抜本的改革
- ⑥ 安全都市プログラム、交通警察の改革、監視センターの新設
- ⑦ 内務省の支部局で、市民の陳情できる機会
- ⑧ ライセンスおよび許可の数を 500 から 220 に削減
- ⑨ 2012 年度の企業検査の禁止
- ⑩ 中小企業や地域企業に対する特典
- ⑪ 投資基金の創設
- ⑫ 売上税の低減

- ⑬ 労働法の改正
- ⑭ 電子入札による政府調達実施
- ⑮ 国家財産の売却に関するオープンで透明な入札実施
- ⑯ その他

外交

キルギス新大統領のトルコ公式訪問

アタンバエフ大統領は、キルギス大統領として、トルコを最初の公式訪問国に選びました。トルコのアブドラ大統領は、「キルギス大統領が、トルコを最初に公式訪問したことは、象徴的なことである」と歓迎の意を表明しています。今回の訪問で、アタンバエフ大統領は、「キルギス・トルコ 20 年間共同協力宣言」に署名しました。アタンバエフ大統領は、トルコに自身のビジネス上の友人も多く、また、政治的な迫害にあった時にも、家族を助けてもらったことがあり、親トルコ家として知られています。アタンバエフ大統領は、「トルコは、キルギスにとって、強い民主国家を作るための手本である」と、兄貴の成功を賞賛しました。トルコは、昨年、キルギスに対する 2,000 万ドルの無償資金許与（グラント）と 5,100 万ドルの債権放棄に合意しています。

欧米のイラン制裁に対する影響

在キルギスイラン特命全権大使モラディ氏は、「キルギス政府が、米国がイランを攻撃するためにマナス空港を使用することを許可しないと信ずる」と記者会見で述べました。核兵器開発疑惑から、現在イランは、米国・ヨーロッパからの制裁と心理的な攻撃を受けています。イランと米国・ヨーロッパの衝突が現実になった場合、マナス空港の米軍基地が使用される可能性は高くなります。アタンバエフ大統領は、昨年、大統領に就任すると逸早くマナス空港の米軍基地使用は、現在のリース契約期限の 2014 年までに終了すると公言しています。しかし、イラン情勢が、予想以上に急展開して、リース契約期限を待たずにアタンバエフ大統領の心配が、現実のものとなるかもしれません。

新大統領ロシア公式訪問の主要課題は

2月、アタンバエフ大統領は、大統領就任後、初めてのロシア訪問をしました。今回の訪問では、キルギス国内にあるロシア軍施設に関する使用料の不払い問題が一つテーマとなりました。ロシア軍の施設は、キルギス国内に少なくとも 4 か所あります。カントにある空軍基地、イシククル湖にある魚雷試験施設、カラ・バルタにある通信センター、マイリイ・スウの地震観測所です。

カント基地は、使用料を免除していますが、他の3施設については、免除していません。過去4年間、ロシアは、支払いが遅れていて、現在、1,500万ドルの負債額になっています。ロシアは、キルギスに軍事訓練や指導を行う、また軍用機材や武器を提供するという形で、支払いを行う合意をしていましたが、実際、これは実行されていません。

【経済】

経済・多国間関係

ヨーロッパ経済危機の影響について

世銀は、昨年から続いているヨーロッパ経済危機が、今年、中央アジア諸国に影響を与えるリスクについて警告しました。今回の経済危機は、2008年～2009年の世界金融危機以上に回復に厳しい時間がかかるものと予想しています。特に、中央アジア諸国は、ロシアからの直接投資と出稼ぎ労働者からの外貨送金に深刻な影響がでると予想されます。このため、世銀は、次の3つの分野における影響を懸念しています。

- (1) ヨーロッパの金融機関の撤退による金融セクターへの影響
- (2) 政府の財政赤字の負担増大
- (3) 外貨送金が6%以上減少

キルギス、タジキスタンなど、GDPの10%以上を出稼ぎ労働者からの外貨送金で賄ってきているため、外貨送金額の減少は、各国経済に直接的な影響を与えそうです。

貿易経済関係の発展

2011年GDP+5.7%、インフレ率+16.6%

国家統計委員会の発表した2011年1月～12月のGDPは、前年同期比で+5.7%、2,731億ソムでした。クムトール（キルギス最大の金鉱採掘企業）を除いて+5.6%、2,406億ソムです。工業生産が、+11.9%と伸びています。一方、主力の鉱業は、-24.6%と振るわず、加工産業-9.8% 公共部門-22.4%、農業+2.3%となっていました。工業では、繊維衣料、鉄鋼・金属生産、セメント、耐火煉瓦など非金属鉱物生産が好調でした。また、消費者価格指数は、+16.6%と上昇しました。2011年11か月の平均賃金（零細企業を除く）は、前年同期比+29.5%と大幅上昇しています。

州ごとの工業生産成長率に大きな格差

国家統計委員会によると、2011年、キルギスの工業生産は、国全体としては順調な成長を見せたものの、キルギスを構成する7州ごとの事情は、かなり違っています。首都ビシュケクを含むチュイ州は、前年比+119.6%と驚異的な伸びを記録しました。一方、隣のバトケン州は、11.6%の減少となりました。これは、鉱業や製造業の生産減だけでなく電力の送配電部門全体が低下した結果でした。第2番目に高い成長を達成したのは、北西部タラス州で+22.5%、電力の送配電増と食糧生産増によるものです。南部のジャララバード州は、エネルギー企業の貢献で、+16.1%、オシュ州は、+15.1%でした。キルギス南部の商業都市オシュ市は、前年比+30.2%と2010年の民族紛争から劇的な回復に成功しました。その他、キルギス最大の鉱山会社クムツールがあるイシククル州が、+3.1%、ナリン州が+4.5%でした。

投資政策・金融市場

新しい財政予算案

ジャパロフ財務大臣は、2012年度の国家予算が、初めての赤字ゼロの均衡予算になると発表しました。新政府は、省庁や公務員数の大幅な削減による歳出カットと、関税・税収増、国家財産管理の効率化などによる歳入増を計画しています。ある専門家は、大臣が、赤字なし予算 (deficit free budget) と命名した2012年度国家予算は、結局は160億ソムの赤字予算に変わりはないと批判しています。彼によれば、予算計画で、赤字を負の財務バランスと命名しただけで、実際のところ、意味するところは同じであるということです。ジャパロフ財務大臣は、「キルギスは、今後3年間で、外部借入を40%削減する。残り60%は、国内からの資金でカバーする予定である」と付け加えました。政府は、今までのところ、国家財政を外部借入に頼ってきましたが、今後5年以内に、政府支出は、国内収入ですべてを賄うことになるということです。曰く、「関税と税収は、予算経費だけに充てられ、その他の支出は、非税金収入で賄う」ということです。政府は、十数社の民営化で、1億700万ドルを調達する計画をしています。

証券市場

国営企業の IPO

キルギス政府は、18の国営企業の株式公開を世界の株式市場で実施し、11億ドルの資金調達をする検討をしていると発表しました。政府は、18の企業名を明らかにしていませんが、現在、100%国が所有する4つの企業を含む18企業のそれぞれ33%の株式を売却、したがって、国が経営権を失うことはないと説明しています。すでに、ロシア、トルコ、ウクライナ、ポーランド、香港などから関心が寄せられているようです。IPOの準備には、約6か月かかるとしています。

鉱業セクター**ロシアガスプロム社による、キルギスガス社の買収**

キルギスガス社は、同社の75%株式をロシア最大の石油会社ガスプロムに売却する検討をしていると公表しました。キルギスガス社は、国の主要なガス配給会社とパイプラインを保有しており、24カ所のガス配給所、5つの地域配給会社と事務所を持っています。一方、ガスプロム社は、現在、キルギスの石油・ガス開発の可能性について地質学のおよび物理学的調査を実施しています。また、キルギス南部のガス田開発に対する資金やガソリンを非課税で安定的に提供することについても議論しているようです。専門家によれば、キルギスには、5億トンの原油が下層土に眠っており、国内需要を賄うのに十分な埋蔵量を持っているということです。国の1年間の原油消費量は150万トン、一方、国営オイル・ガス製造会社キルギスネフチェガスは、現在、わずかに7万トン生産しているだけです。キルギスは、原油・ガス採掘や生産するための資金がないため、外国からの投資を必要としています。

農業セクター**キルギス政府、農家プロジェクトへのソフトローンを承認**

2011年11月に第1回目のソフトローンが実行されましたが、今回は、対象作付面積を2万3,000ヘクタールに増大、また前回9%の利子率を7%に引き下げ、10億ソムが割り当てられました。半分が、家畜の資金に、残り半分は、作物に割り当てられます。政府は、2012年度の農業生産増を+3.5%と計画しており、食品加工や農産物の輸出増加を目指しています。さらに、農家の農業機械購入やレンタルを支援するため、リース制度の開発、リース会社の所得税軽減策など進めています。キルギスの就業労働者の約3割、GDPの2割以上を占める農業部門は、資金不足や機械購入、難しい販売市場など数多くの問題に直面しています。

観光セクター**ビザなし制度導入で、キルギス観光産業成長への期待高まる**

議会で、新たな観光誘致策として、キルギスを訪れる先進国からの観光客に対して、ビザなし入国できる制度を導入するための法案が審議されています。この制度により、政府は、2013年までに、観光客数が3割程度、伸びると期待しています。しかし、ある専門家は、「ビザなし制度だけで、キルギス観光産業の状況を変えることは難しい、インフラやサービスの向上がより重要である。お金のある観光客は、キルギスよりもアンタルヤ（トルコ南西部）やクロアチアに行くだろう。我が国を訪問する観光客は、依然として、特殊愛好家（登山家、川下り、カヤックなど）が中心である。彼らは、文化的観光客とは違った嗜好を持っている」と言います。政府は、ビザ

なし制度は、旅行者のコストを下げることにもなるので、有効であると期待しています。さらに、あるツアー・オペレーターは、「この制度は、必ずしもキルギスを旅行者のパラダイスにしないだろう。観光客の増加は、自然環境システムを壊す危険をもたらす」と警戒しています。すでに10年以上、ビザなし制度が適用されている日本の場合、毎年の旅行客数は、約2千人にとまっています。

エネルギーセクター

カ氏マイナス13度（セ氏マイナス25度）という記録的寒さが、キルギスの電力システムを襲う
首都ビシュケクでは、この冬、頻繁に停電が起っています。政府は、過去10年～15年の間に、電力消費量が50%近く増加しており、首都に電力供給する22のサブステーションの半分以上が過負荷となっていると説明しています。ビシュケクの急速な都市化で電力消費が急増していることが、大きな要因となっています。さらに、石炭価格の上昇と、昨年、カザフスタンからの輸入石炭が放射能汚染されていた事件があったから、石炭の使用を避け、電気の暖房が増えたことも要因としてあげられます。それでも、多くの人は、キルギスの電力危機の本当の原因が、ソ連時代に作られた中央アジアの統一電気供給システム「環（エネルギーリング）」に依存していることにあると考えています。これは、南北を天山山脈で分断されているキルギスでは、南部にある中央アジア最大のトクトグル水力発電所から、首都のある北部地域に、直接送電するインフラがなく、電力供給を、このエネルギーリングに依存しているという問題です。トクトグルから、キルギス北部地域が、電力を得るには、このエネルギーリングを使うため、同じくこれを利用するカザフスタンとウズベキスタンの電力線を使用することになります。今年の冬、カザフスタンは、ウズベキスタンの不法電力使用を理由に、このエネルギーリングから、脱退すると発表しましたが、三国会議で、この問題は一旦回避されました。しかし、もし、カザフスタンとウズベキスタンが、このエネルギーリングから、撤退した場合、キルギスの北部地域は、完全にエネルギー崩壊に陥ることになります。

情報・通信セクター

携帯電話会社に対する windfall tax の導入

すでに、政府は、先月末にも、同様の税を鉱山開発会社に導入する計画であると発表しています。Windfall tax は、特別利益税、または棚ぼた利益税とも呼ばれ、一般的には、企業収益が適正利潤を超えたときにその超過分を税収として吸収するため設けられる税です。世界では、二度にわたる石油危機に伴う原油価格高騰や、原油価格規制撤廃に伴う価格上昇などで、原油生産者が予

定外の超過利潤を享受したとして、それを税収として吸収するために導入されています。政府は、この新しい税金を、業績好調な鉱山開発会社と携帯電話会社に導入することを検討しています。

運輸・交通セクター

ババノフ首相、ウズベキスタンと中国を繋ぐ鉄道建設を承認

建設キロ 167 マイル、建設総コスト 20 億ドル、建設には約 1 万人の労働者が必要となります。路線には、トンネル 48 (合計距離 30 マイル)、4 つの駅と 95 の橋が敷設されます。完成は、2018 年で、3,500 人以上の新規雇用が生まれ、鉄道収入は、年間 480 万ドルと見込まれています。一方、ビジネスの現場では、すでにアジアとヨーロッパを結ぶ鉄道サービスの利用が急速に拡大しています。オーストリアの Far East Land Bridge (FELB) 社は、中国とヨーロッパ間を毎週 3～4 両のコンテナ貨物列車を運転しています。同社によれば、「以前は税関書類が多いロシアでの通関が大きな問題であったが、現在では、単一運送状と電子積荷目録で時間が節約できるようになり、更に、国境でのゲージ変更 (ヨーロッパ・中国と旧ソ連邦諸国の鉄道の軌間が異なる) もスピードアップしている」、「現在、40 フィート・コンテナを、年間で約 1 万 6 千個取り扱っているが、2015 年までには、10 万個まで増える」と予想しています。昨年、DHL、ワイスローリング、フーバック、ルスカヤ・トロイカ、ユーラシア・グッド・トランスポートなどが、中国から中央・西部ヨーロッパへの鉄道サービスを開始しています。これらの多くは、FELB 社のピギーバック輸送 (台車輸送) による一貫輸送を利用しています。DHL の中国 Land Bridge サービス社は、毎日、北京・上海とロシア・CIS 諸国間を往復する鉄道サービスを行っています。このサービスを利用すれば、船で 35 日～42 日かかる輸送が、19 日～25 日に短縮でき、しかも、コストは、航空輸送より 9 割も安くなります。DHL は、カザフスタン、中国、キルギス、ロシア、タジキスタン、ウズベキスタンの域内交易地に沿って、鉄道網が発達していくにつれ、鉄道便が、益々良くなってきていることに顧客が、気付き始めたと見えています。

新たな航空便フライドバイがスタート

UAE のドバイを本拠地としている格安航空会社フライドバイ (エミレーツ航空グループ) が、キルギスのマナス空港に週 2 便の運航を 2 月からスタートします。マナス国際空港は、1970 年代初めに建設されたキルギスの首都ビシュケクの空港です。現在、アゼルバイジャン、中国、イラン、カザフスタン、ロシア、タジキスタン、ウズベキスタンと定期便が飛んでいます。また、トルコ航空がイスタンブールへ毎日飛行、ブリティッシュ・ミッドランド航空が、週 3 便ロンドンに飛んでいます。フライドバイは、ビシュケクと中東、インド亜大陸、アフリカへの新たなゲートウェイを提供することになります。

執筆者略歴

熊切一郎 : 1976年一橋大学経済部卒、同年三菱信託銀行入社、香港、ロンドン、シンガポール勤務、主に国際金融開発、国際投融资業務を担当、2005年三菱UFJ投信、2010年9月より独立行政法人国際協力機構シニアボランティアでキルギス共和国大統領府が設立したPublic-Private Partnership and Investment Promotion Centerで投資アドバイザーとして活動中。